

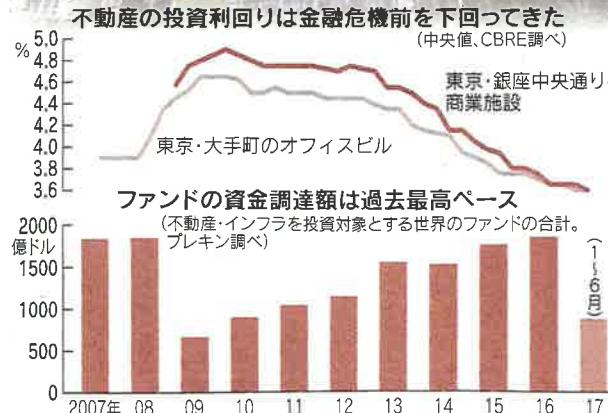
日本経済新聞

土曜版

2017/7/22, 土, IP

NIKKEI
2017年 7月22日 土

米ファンドが「ギンザシックス」(東京・中央、写真)の1フロアを200億円強で取得した



不動産マネー 世界で過熱

不動産の投資利回りは金融危機前を下回ってきた
(中央値、CBRE調べ)

4月に松坂屋銀座店跡に開業した複合商業施設「ギンザシックス」。わずか2カ月後

の6月末、不動産会社のヒューリックは同施設の区分所有権を売却した。買い手は米不動産ファンドのグリーンオーフィス・リート・エスターートだ。

グリーンオーフィスは買取たのは同施設8階のオフィスフロア部分。現時点ではテナントは埋まっているが、銀座のオフィス需要は強いとみて20億円強を払った。「予想以上の高値で売れた」と明かすヒューリックは、80億円前後の売却益を手にしたようだ。

ファンドマネーが日本の不動産市場に流入している。4月に香港ファンドのガウキヤビル(横浜市西区)もその一つ。今年上期の日本の不動産取引で最大案件となつた。

世界の不動産市場にファンデマネーの流入が加速している。低金利下の運用難に悩む年金や金融機関からお金を集め、不動産やインフラを投資対象とするファンデは2011年上期に過去最高ベースの875億ドル(約10兆円)を調達した。ファンデの攻勢で不動産価格に過熱信号が点灯。金融引き締めに動き始めた米国など欧米主要国の中央銀行は価格高騰を警戒し始めた。

ファンデの資金調達額最高に

世界の不動産市場にファンデマネーの流入が加速している。低金利下の運用難に悩む年金や金融機関からお金を集め、不動産やインフラを投資対象とするファンデは2011年上期に過去最高ベースの875億ドル(約10兆円)を調達した。ファンデの攻勢で不動産価格に過熱信号が点灯。金融引き締めに動き始めた米国など欧米主要国の中央銀行は価格高騰を警戒し始めた。

不動産投資では賃料収入を得て価格で割った投資利回りを求める年金や金融機関の強

が採算を測るモノサン。取得

い投資需要がある。ゆつちよ

価格が上がるほど利回りは低

下する。08年の世界金融危機

直前のピーク時でも横浜市中

心部の大型オフィスビルの利

回りは5%台前半だったが、

今回のガウの投資利回りは3%

前後。「過熱感があるのは事実だが、借入金利との差は

大きく魅力的」。同ファンデのケネス・ガウ社長はいう。

中銀は価格高騰警戒

低金利でシフト

年金積立金管理運用独立行

政法人(GPIF)もファン

ド投資の準備を本格化。今

度中にインフラなどで実績を

作る考えだ。「株式は価格が

下下しやすく、下がると不安

感だつた当時に比べて高い。

中銀は世界的な現象だ。米アラ

バタクストーン・グループは6

月、欧州の商業用不動産に投

資するファンデで90億ドルを

集めた。空港や港湾などの運営

大は世界的な現象だ。米アラ

バタクストーン・グループは6

月、欧州の商業用不動産に投

資するファンデで90億ドルを